【授業科目】急性看護学実習Ⅱ　Advanced Practicum of Critical Care NursingⅡ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、内山 泉	１年次 後　期	選　択	２	９０	実習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	クリティカルな状態にある患者の初療および手術、手術後の患者のアセスメントを行い、クリティカルケア看護専門看護師として、支援の実践能力を修得する。 実習は、実務家教員（吉田、内山）が進める。 課題に対するフィードバック/日々の実習内容については、口頭での指導および提出された記録物についてコメントをつけて返却する。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①クリティカルケア領域において集中的かつ高度医療を要する患者に特有の治療・処置および診断プロセスについて理解を深め、高度実践看護師として実践する中でそれらを活用し自律した看護実践能力を修得する。 ②クリティカルな状況にある患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかることができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	＊詳細については、実習要項参照のこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	実習時期、場所につきましては、決まり次第連絡します。 １．　実習目標 １）クリティカルケア領域において集中的かつ高度医療を要する患者に特有の治療・処置および診断プロセスについて理解を深め、高度実践看護師として実践する中で、それらを活用し自律した看護実践能力を修得する。 (1)救急初療における看護実践 (2)診断プロセス (3)救急初療から治療・処置・手術に至る患者への看護実践 ２）クリティカルな状況にある患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかることができる。 ⑴ クリティカルな状況にある患者の苦痛の理解と効果的な緩和 ⑵ クリティカルな状況にある患者に対しての安楽について考え、対応ができる ２．実習方法 （１）学生は、目標の達成に向けて主体的に取り組む。 （２）学生は、集中治療・看護を必要とする患者を受け持ち、患者の初療室入室から退室、手術・手術後までの看護過程を展開して看護実践能力を高める。 ３．評価方法 実習目標の達成度（50%）カンファレンスの参加度（20%）実習記録（30%）によって総合的に評価する。60 点以上を合格とし単位を認定する。
評価方法 評価基準	実習目標の達成状況、実習記録、課題レポート、実習指導者からのコメントを含めて総合的に評価する。 ＊詳細は、実習要項参照のこと。

教科書	なし	参考書等	適宜指示